

或本の歌に曰く

三二八六番

玉たまだすき かけぬ時ときなく 我あが思おもへる 君きみにより
ては 倭文幣しつぬきを 手てに取り持もちて 竹玉たかたまを しじ
に貫ぬき垂たれ 天地あめつちの 神かみをそ我あが祈のむ いたもす
べなみ

反歌

三二八七番

天地あめつちの 神かみを祈いのりて 我あが恋こふる 君きみい必かならず 逢あ
はざらめやも